

第3回栗原圏域会議

【日時】令和6年10月29日（火）13時30分から15時20分まで

【場所】栗原合同庁舎3階第一会議室（西）

【委員からの主な意見】

（1）第6期みやぎ観光戦略プランの中間案

○観光客の受入環境整備の一環として、道路の狭隘な部分の整備や歩道の除草管理の対応を検討してほしい。

○栗駒山のレストハウスについて、駐車場からレストハウスまでの坂が30度くらいあり、歩くのが大変である。レストハウスの改修と合わせて何か対策を講じてほしい。

○プランはすばらしいと思うが、どのようにして実現していくかが重要である。

（2）圏域の施策の方向性及び取組

①圏域の観光の現状課題・施策の方向性及び取組

○アドベンチャーツーリズム、農泊などの取組を、誰が主体となり、どのように連携して滞在型観光に結び付けていくのか、実施計画のようなものがこれからの課題ではないか。

○圏域の現状と課題にある「二次交通の不足」については、ジャンボタクシーの利用も可能であり、不足とは言えないのではないか。

○夜間や朝の時間帯はタクシーの台数やバスの運行が少なく、観光客にとって利用しづらいという現状がある。また、くりこま高原駅からハイルザーム栗駒など栗駒山麓の温泉宿泊施設を結ぶ公共交通路線がないという現状があり、公共交通は不足していると言えるのではないか。

②圏域別数値目標の設定の方向性

○新型コロナウイルス感染症流行時の宿泊者数に着目し、今後のホテル・旅館等の宿泊者数の伸び率として105%を想定しているが、物価高騰の影響も加味した方が良いのではないか。

○栗原市の観光客入込数に対する宿泊者数の割合は例年5%~6%である。目標値の立て方として、その割合を6%、7%と段階的に上げていくという考え方も検討してよいのではないか。

○ビジネスホテルの毎月の宿泊者のうち、明らかに観光で宿泊している人数を拾い上げたところ、最も多い月でも1割程度で、大部分は仕事での宿泊であった。当圏域のビジネスホテルは概ね同じような傾向だと思われるので、観光の宿泊者数を増やすことを目標とする以上は、実際に栗原市の宿泊者数のうち観光目的の人数がどれくらいか、現状を調べてから考えていった方がよいのではないか。

（3）みやぎ観光振興会議設置要綱の一部改正

○県議会でも付帯意見がつけられており、しっかり宿泊事業者から意見を聴いてほしい。

（4）その他

○宿泊税の活用施策の1つとして説明されている、市町村宿泊税交付金の2階部分（提案事業に対する交付）については、市が中心に提案することになるが、圏域会議などで意見聴取しながら事業設計を

していくといった進め方がプランの実現のためには必要ではないか。

○宿泊税の市町村宿泊税交付金 11 億円をどのように使うのかについては、関係団体の声を吸い上げて決めてほしい。